

9月のブルーベリー農園その2（東広島市豊栄町）

体が、いろいろなところできびきび動かず、時に軋みをきたすようになっていたのでブルーベリーの栽培のための農作業に伴う環境をいろいろ考え、少しずつ変えたりしている。例えば、車に高齢者マークを貼ることを始めたり、刈り払い機を背負うタイプから

肩にかけるタイプにし、なおかつチップソーとナイロンカッター別の2台で機能分けをしたりしている。援農では友人たちがブルーベリーの枝の野焼きや、春には防草シートを敷く、秋にはシーズンが終わったのでシートを畳む作業を手伝って頂いたり。もちろん摘み取りでは安芸の郷やたくさんの援農と、農園のある地域の2つの障害者の事業所が協力、参加が始まったり。でも天気だけは手が届かない。でも季節、季節でいろいろな景色を見せてくれるのも自然。



春ころから車に高齢者運転中のシールを貼っている。はてどこで売っているか→そう 100 円ショップだということので手に入れた。



9月11日（土）新しい刈り払い機が届いたのでハンドルの向きなどの調整をする。



ナイロンロープをセットして早速使用する。背負い式より

ずいぶん楽なことが分かった。



畑の草取りで使う2本足の熊手。随分昔の農具だが重さも適度にあってとても使いやすい。今はこのような農具はないと思うので大事に使いたい。



9月12日（日）。

剪定できなかった小さいブルーベリーの木の手入れを行う。竹を立てて木をくくり風で動かないように補強した。





他にも剪定できず実がなりすぎた木があり、実のついた枝を切って整理する。あとで熟れた実だけ収穫した。



② ヨメナ



農園の周辺には初秋の植物がいろいろな花を咲かせている。

① ススキの穂が出てきだした。



③ ヒガンバナ



② オミナエシかオトコエシがススキの中に混じって咲いている。



④ ハゼの花

2021年9月15日
社会福祉法人安芸の郷 理事長 遊川和良

《2021年9月15日の「新・ヒロシマの心を世界に」のブログに掲載したものに写真を加えて編集しなおしています》